

令和6年度 幼児教育研修（新人）（足立区教育・保育の質ガイドライン）

「保育の基本」（第1回）

日時：令和6年7月11日（木）14:00～16:00

会場：足立区生涯学習センター

講師：日本体育大学 教授 齊藤 多江子 氏



受講者数 75名

子どもを権利の主体としてとらえる

- ・子どもは、一人の人間として生まれ、育っていく存在
- ・育っていく過程にあっても個としての尊厳をもつ



- ・大人と同様に人としての権利をもつ存在=人としての権利の主体
- ・子どもが主体的である=尊厳と権利をもつ主体である

保育における基盤

◆基本的信頼感の形成

- ・子どもの主体性を育みながら保育を行う
- ・保育士等との信頼関係の構築（愛着形成）による基本的信頼感の形成



保育士等が子どものサインを適切に受け取り、子どもの自己選択を促しつつ、温かく応答的に関わっていくことが重要



各人が演習に取り組んだ後に

「子どもの最善の利益」「子どもの主体性」について考えグループワークをしました。



研修報告書より



研修後、各自が自園に戻って取り組むことを設定し、実践した後に報告書を書きました。

2週間経ってみて、一人ひとりに合う遊びを行うことにより、子どもたちの遊ぶ際の落ち着き、集中力が関わりにより変わってきたように感じた。また、一人ひとりの関わりを見直していくと、トイレ、午睡などの切り替え方がわかり、そして、しっかり子どもの目線に立つことにより、声かけや動きがスムーズになってきたようにも感じ、気付くことができた。

2週間、自分がされる立場になって考えながら関わることで、以前よりも声をかけから行動できたと感じた。声かけをすることで、手を拭くときに子どもが自分から手を出してくれたり、求めている気持ちを受けとめて抱っこをしたり、一方的な関わりでない寄り添った関わりが増えたと思う。子どもが泣いているときや、急いでいるときにも、子どもが受け止められていると感じられるよう、焦らず余裕をもちながら、今回学んだことを活かしていきたいと思った。

子ども一人ひとりの尊重を強く意識すると子どもとの会話の時間がこれまでよりも長い時間ゆったりとしたものになったと良き気づきとなった。保育の振り返りにおいては、他保育者の保育の姿に注目することに加え、新たな気づきと繋がるように努めた。保育に対して疑問を持つことも増え、改めて保育を考えることができていると感じた。

実際に実践してみると、急いでいても「抱っこするよ」と声を掛けたり良さを褒めたりすることが、そんなに時間がかかるものではないということを感じた。心の余裕をもつことで子どももおだやかに過ごしていることを感じた。「こうあらねば」と思い込んでしまうのではなく、疑問に思ったことはどうすべきか考えることから始めることを大切にしたいと思った。

保育の中でも、特に時間に追われやすい食事の場面で丁寧な関りを意識した。実践としては一人ひとりの食事のペースを理解し、時間を気にしながらも援助するタイミングを工夫してみた。自由に手づかみ食べに挑戦した後にスプーンで援助したり、スプーンを使う時にまだすくうことが難しい食材を保育者が援助し他のものを自分で食べられるようにしたり、子どもたちがゆったりと食事を楽しめるようにした。結果、落ち着いた雰囲気の中で自分から進んで食事をする姿が見られ、自分自身も時間に追われることなくゆとりを持って向き合うことができたと感じた。